

学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（浪速区）

1 目的

本市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。その後、順次、実施してきており、平成31年度入学者からは、小学校・中学校ともすべての区で実施しています（生野区の一部を除く）。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒の割合についても、年々増加している状況となっており、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

平成26年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童・保護者が、令和2年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用することとなることから、このタイミングを捉え、導入時の「熟議」や「就学制度の改善」において期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時の「熟議」や「就学制度の改善について」で期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目を全区共通の調査・分析の視点として設定しました。

- 【視点①】学校選択制の満足度はどうか
- 【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか
- 【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか
- 【視点④】特色ある学校づくりが進んだか
- 【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか
- 【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか
- 【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか
- 【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか
- 【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

3 調査・分析データ

大阪市では、平成26年度の制度導入より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和3年度に区内の市立小・中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施
 ※学校選択制導入時（平成30年度）～昨年度（令和2年度）に入学した児童生徒の保護者全員に実施したアンケート調査結果も使用。

地域団体関係者アンケート＝1つの小・中学校あたり3サンプルを目安に、地域団体役員等を対象に実施。

【学校状況調査】

区内の全市立小学校・中学校を対象に実施

【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

【保護者アンケート】

令和3年5月下旬に各区役所から学校を通じてアンケートを保護者に配付（学校からの配付基準日：5月28日）。回収は区役所あて6月9日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

【地域団体関係者アンケート】

令和3年度に、会議などを通じて、地域団体の役員等に配付し、回収。

【学校状況調査】

令和3年度に、会議などを通じて、1つの学校あたり1枚の調査用紙を配付し、回収。

5 アンケート回収状況

（保護者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
小学校	292	133	45.5%
中学校	208	68	32.7%

（地域団体関係者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
地域団体役員等	24	21	87.5%

（学校調査）

	配布数	回収数	回収率
小学校	6	6	100.0%
中学校	2	2	100.0%

6 調査・分析結果

3ページ～26ページのとおり

※本報告書の構成について

本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しております。各アンケートにおける、結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。

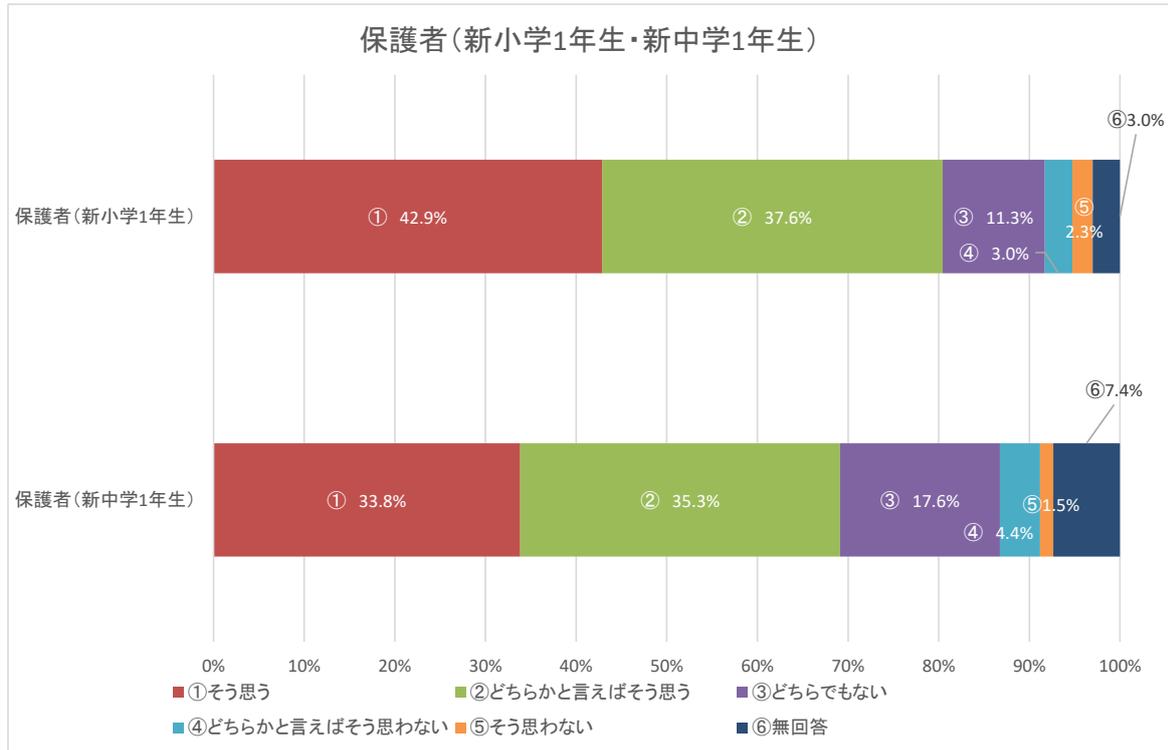
調査・分析内容

【視点①】 学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問20、保護者アンケート(新中学1年生):問27】<1つだけ回答>

ア)全体



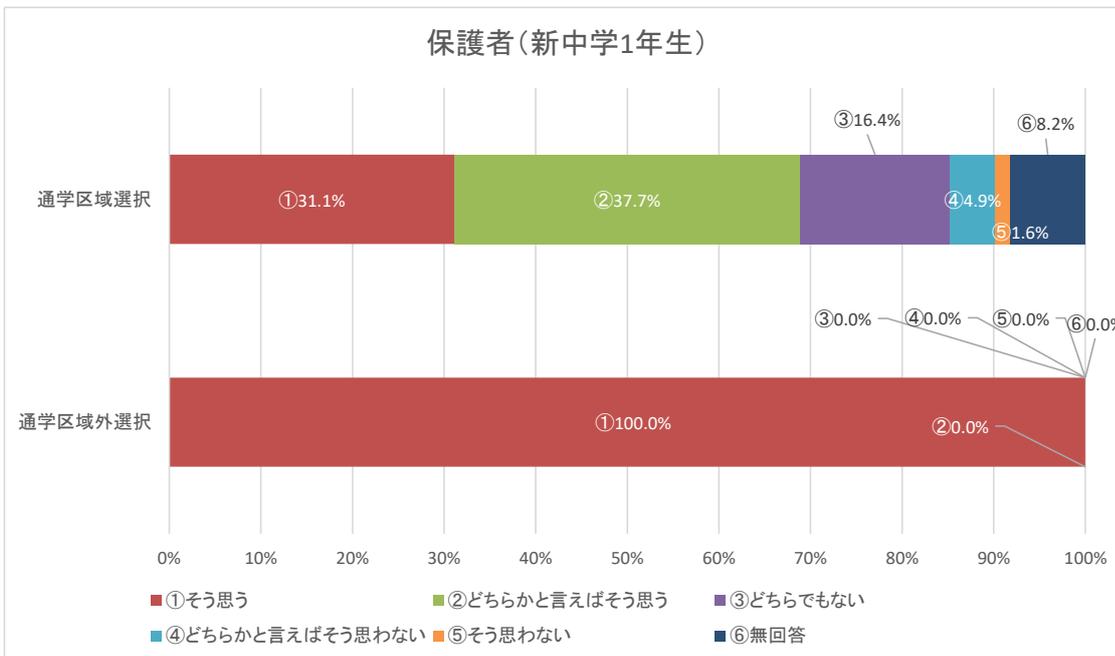
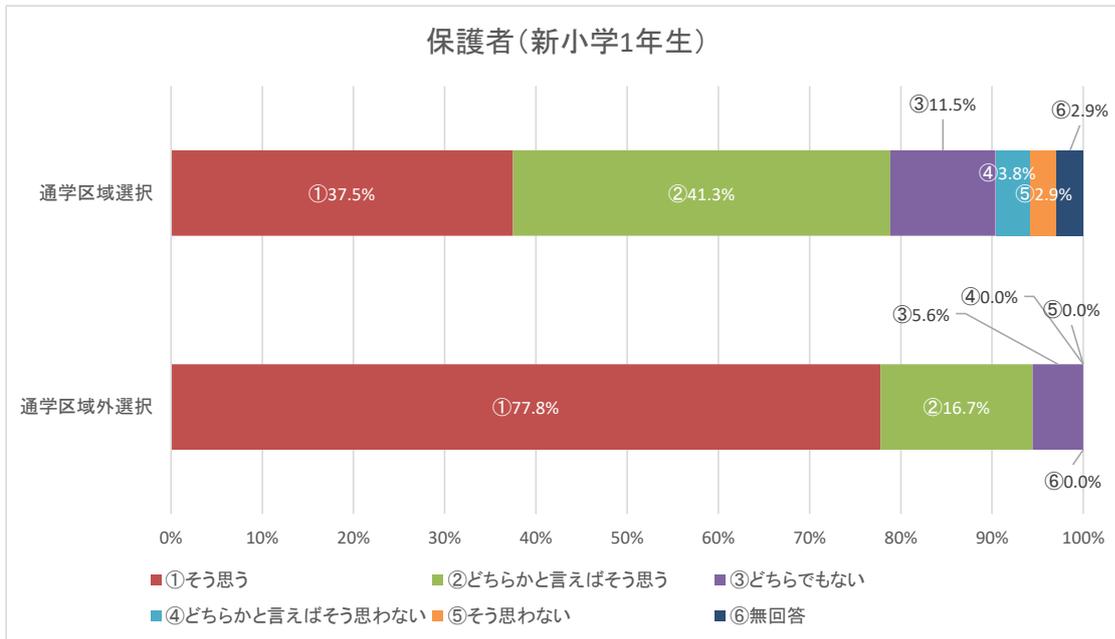
(分析)

学校選択制が良い制度だと思いますかの問いに、「① 1」「② 2」との回答が、新小学1年生の保護者で80.5%、新中学1年生の保護者で69.1%の方が、良い制度だと回答している。

【理由】

- 「① 1」「② 2」保護者(新小学1年生)
 - ・学校選択制によって、教育方法を、親子共に選択でき、また納得のできる教育方法を選択できるから。
 - ・行きたい学校へ行ける事により、子どものモチベーションが上がる。親も、その姿を見られるので良い。
 - ・自分で選択して行けるのは、とって視野が広くなり良いと思います。
 - ・子ども1人1人に合った教育、人数などいろいろな選択肢がある事で、可能性が広がるから。
- 「⑤ 5」「④ 4」保護者(新小学1年生)
 - ・わざわざ校区外から来る意味が分からない。自宅から歩いていけない所から来ている人を見ると校区の小学校に行った方が良いと思う。校区外からの人が増えてあまり良く思わない。
 - ・学校選択制のメリットがわからない。すべての学校が見学出来てすべての学校からえらべるなら理解出来るけど、結局学区の小学校しかいけない。
- 「① 1」「② 2」保護者(新中学1年生)
 - ・子どもが自分で情報を見て選択できるのでとてもよいと思います。
 - ・生徒の人数(学校規模)を考慮に入れられる。例:小学校が小規模だったので中学では人数の多い方がよい等。
 - ・多様な状態、環境の中、自分(本人・家族)に合った学校選びが出来るのが良い。
 - ・入りたい部活があればいいと思います。
- 「⑤ 5」「④ 4」保護者(新中学1年生)
 - ・校区外の学校を選択するメリットがあまり感じない。
 - ・悩むのでない方が良いと思う。
 - ・人気のある学校に生徒が集中してしまうから。

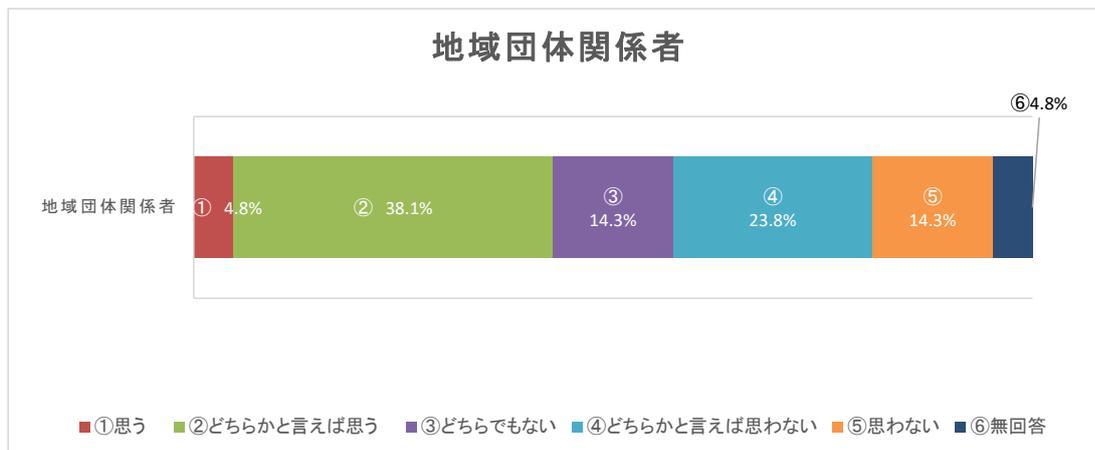
イ)通学区域・通学区域外別



(分析)
 通学区域外の学校に就学している子どもの保護者は、新小学1年生及び新中学1年生のどちらも「① 137.5%」「② 241.3%」と回答した割合が高く、学校選択制により希望する通学区域外の学校に就学できたことにより、通学区域の学校に子どもが就学している保護者に比べて、制度についての評価が高い結果となっている。

②学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問6】<1つだけ回答>



【理由】

○良い制度だと「①思う」「②どちらかと言えば思う」

- ・校区内の学校へ行くより、近い学校を選べるのも共働きの家庭では帰宅時の心配が減ります。
- ・子どもにはそれぞれ個性があり、その子どもに合う環境を選ぶ事が出来るのは、とても良い事と思います。
- ・教育の幅が広がり、自分に合った学校を選べる

○良い制度だと「⑤思わない」「④どちらかと言えば思わない」

- ・通学の安全性や子どもの顔が見えない事でリスクが大きいと思う。
- ・登下校時の安全確保が低下する。
- ・本来、学校は保護者のためではなく、児童、生徒の学びの場である。それを保護者の希望で選択されるのは子どもの為になっていない。

【視点①総括】

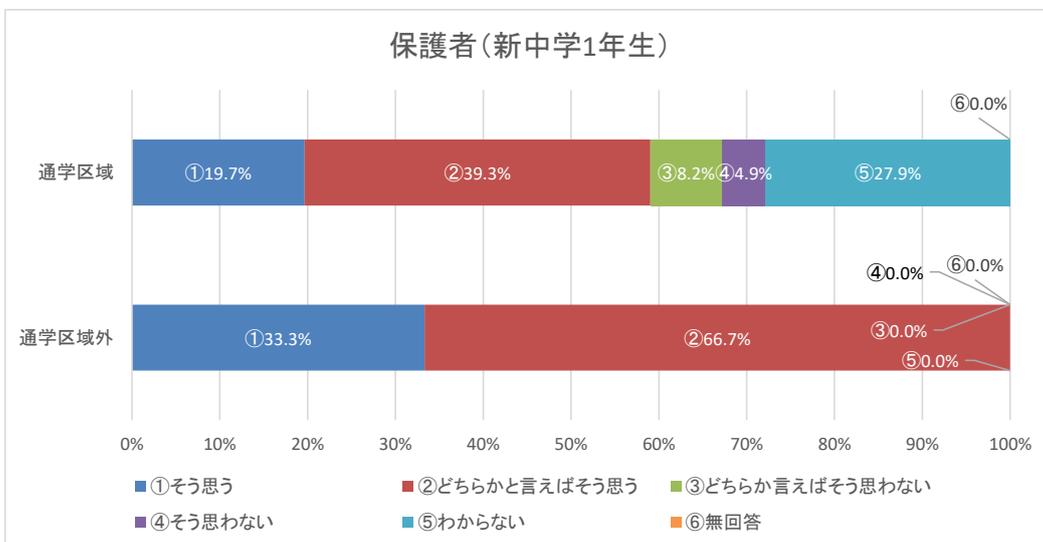
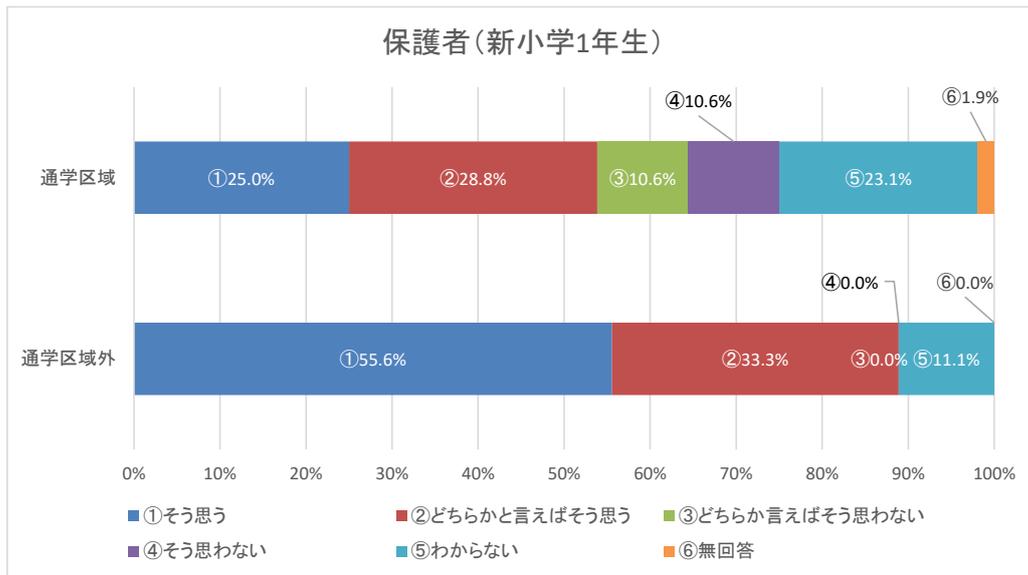
学校選択制については、小学校で通学区域の学校を選択した保護者の78.8%、通学区域外の学校を選択した保護者の94.5%、中学校で通学区域の学校を選択した保護者の68.8%、通学区域外の学校を選択した保護者の100.0%が良い制度であると回答している。

また、地域団体関係者においては、「①思う」「②どちらかと言えば思う」を合わせて42.9%となっている一方、「⑤思わない」「④どちらかと言えば思わない」を合わせて38.1%となっており、こちらは否定的な意見も多い。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問18、保護者アンケート(新中学1年生):問22】<1つだけ回答>



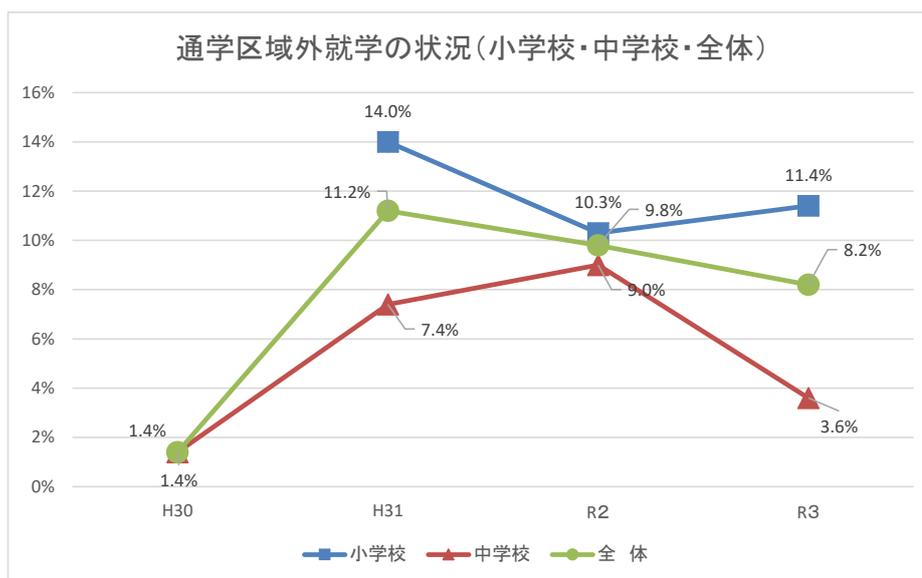
(分析)

学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているかとの問いに、通学区域外の学校に就学している子どもの保護者は、新小学1年生及び新中学1年生のどちらも「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」との回答を合わせて80%以上で、通学区域の学校に就学している子どもの保護者に比べて、学校選択にあたって意見を述べることができていると考える割合が高くなっている。

②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



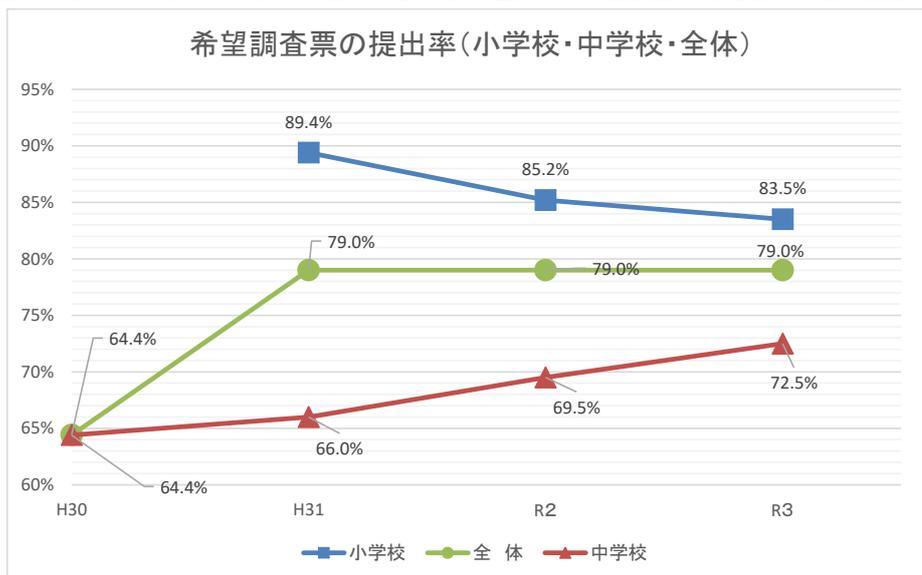
(分析)

学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況は、令和3年度の小学校で11.4%、中学校で3.6%、全体で8.2%となっている。中学校よりも小学校で学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合が高い。

③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



(分析)

学校選択制の希望調査票の提出状況は、令和3年度の小学校で、83.5%、中学校で72.5%、全体で79.0%となっている。制度導入時から比較して、小学校では緩やかな低下傾向、中学校は上昇傾向となっている。

【視点②総括】

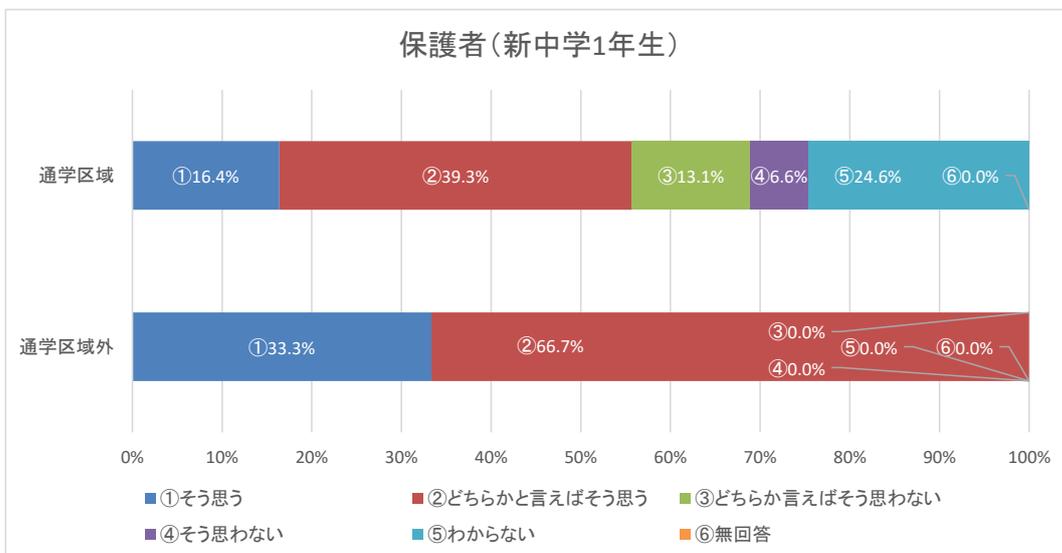
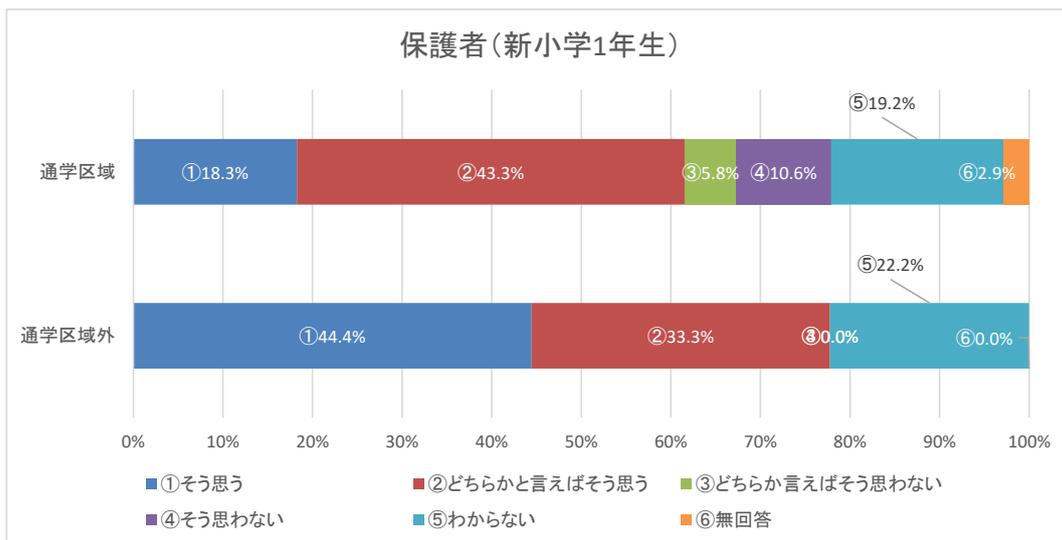
学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができますかの問いに、通学区域外の学校に就学した子どもの保護者は、通学区域の学校に就学した保護者より意見を述べていると思う割合が高くなっている。

学校選択制による通学区域外への就学については、令和3年度で、小学校で11.4%、中学校で3.6%となっており、大阪市平均(小学校10.5%、中学校6.9%)と比較すると、中学校が低くなっている。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

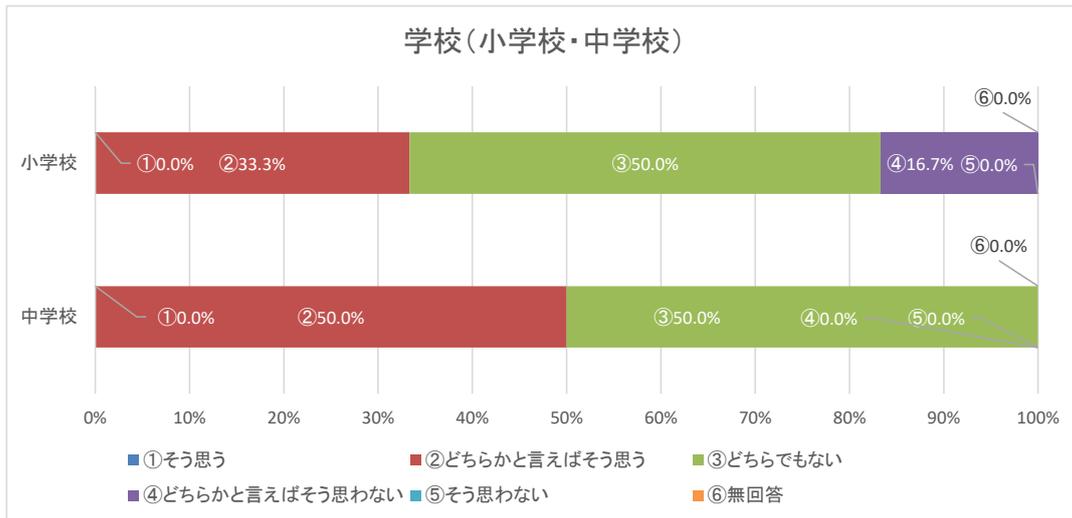
【保護者アンケート(新小学1年生):問19、保護者アンケート(新中学1年生):問23] <1つだけ回答>



(分析)
 学校選択制によって学校教育に深い関心を持つようになった割合は、通学区域の学校に就学する子どもの保護者の「①そう思う」「②どちらかといえばそう思う」の回答が新小学1年生の保護者で61.6%、新中学1年生の保護者で55.7%となっている。
 通学区域外の学校に就学する子どもの保護者は、「①そう思う」「②どちらかといえばそう思う」の回答が、新小学1年生の保護者で77.7%、新中学1年生の保護者で100.0%と、いずれも通学区域の学校に就学する子どもの保護者よりも学校教育に深い関心を持つようになったと考える。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査:問1】<1つだけ回答>



(分析)

学校選択制によって、学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますかの問いに「②どちらかといえばそう思う」の回答は、小学校では33.3%、中学校では50%となっているが、「③どちらでもない」という回答も、小学校・中学校共に50%となっている。また、小学校では16.7%が「④どちらかといえばそう思わない」と回答している。

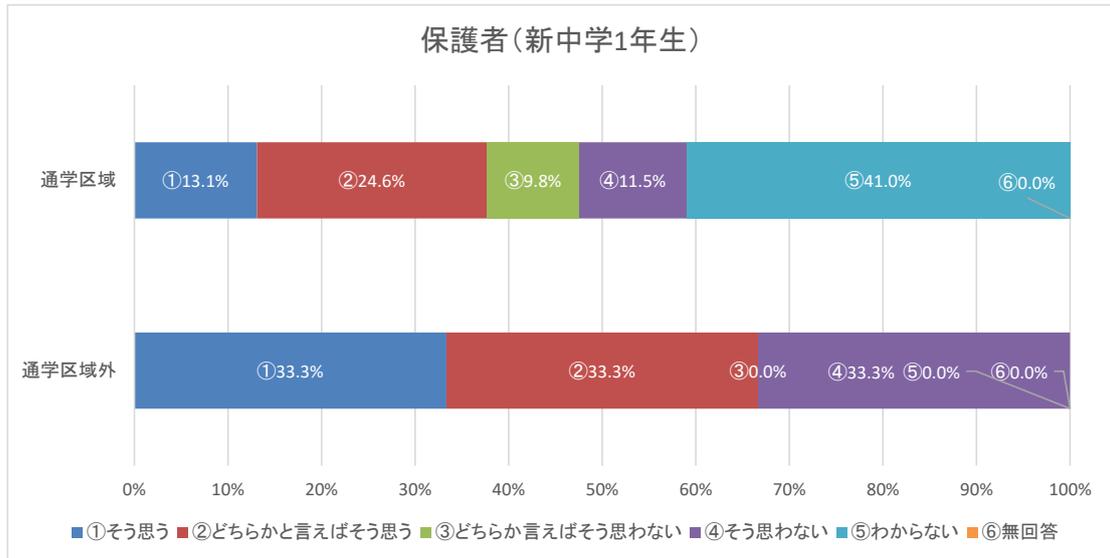
【視点③総括】

学校選択制が学校教育への関心を深めることに対して、保護者は学校選択制による影響について肯定的な割合が多く、通学区域外に就学する子どもの保護者の方が、より肯定的にとらえている。学校では、肯定的な意見もあるが、どちらでもないという回答も小学校・中学校共に50.0%を占めている。

【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問24] <1つだけ回答>

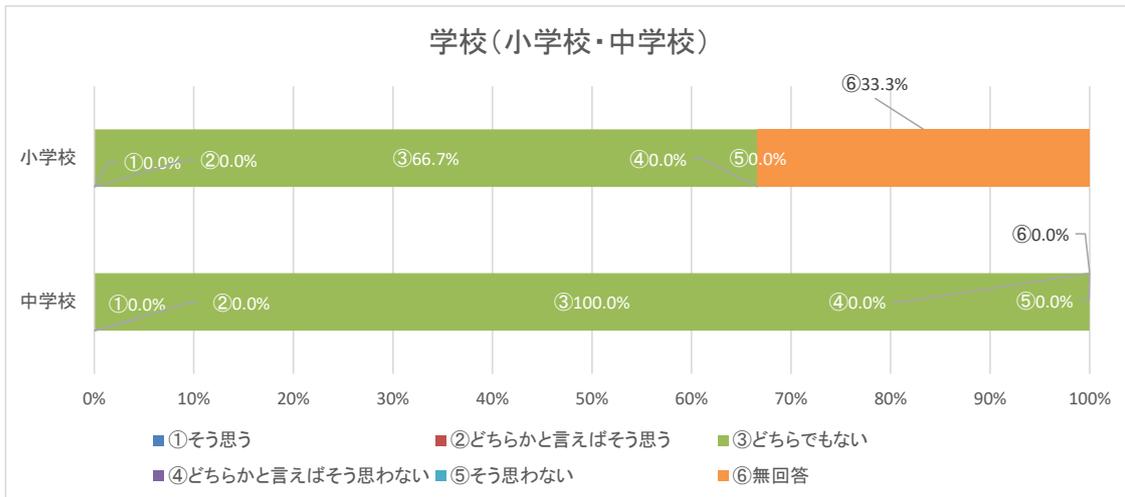


(分析)

学校選択制による特色ある学校づくりが進んだと思いますかの問いに、通学区域の学校に就学する子どもの保護者は「⑤わからない」とする回答が41.0%と最も多くなっている。通学区域外の学校に就学する子どもの保護者では「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」との回答が66.6%となっている。通学区域外の学校に就学する子どもの保護者の方が肯定的に受け止めている傾向にある。

②学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査:問3] <1つだけ回答>



(分析)

学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますかの問いに、小学校で66.7%、中学校で100%が「③どちらでもない」との回答している。

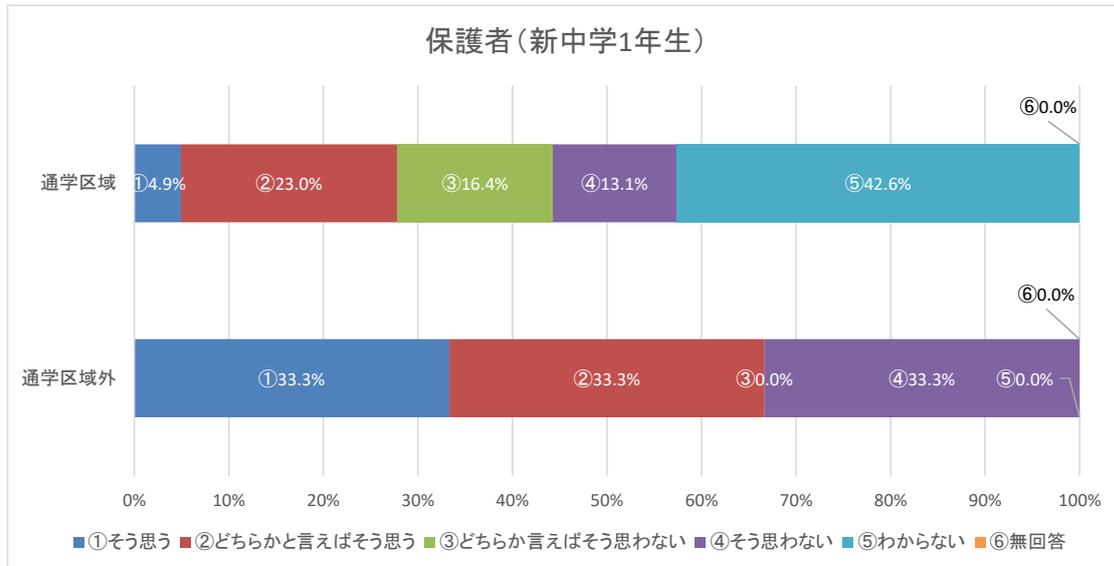
【視点④総括】

学校選択制による特色ある学校づくりについて、通学区域の学校に就学する子どもの保護者は学校選択制によるものかわからないとする受け止めも多いが、通学区域外の学校に就学する子どもの保護者の方が肯定的に受け止めている傾向にある。学校では、学校選択制の影響はないと考えている。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生)：問25】<1つだけ回答>

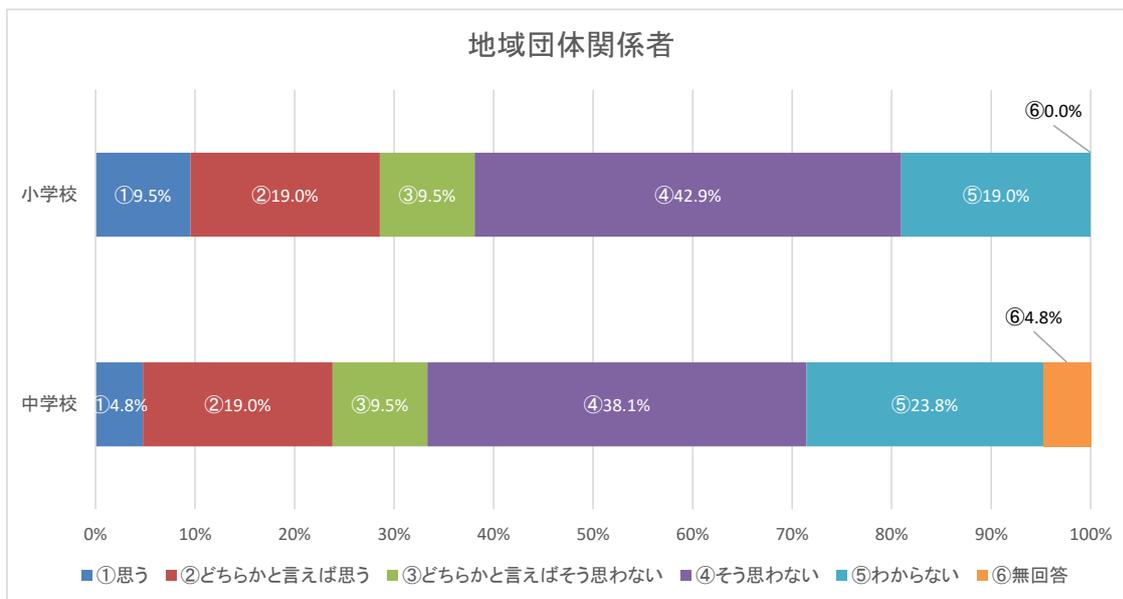


(分析)

学校選択制による保護者や地域住民の参加が進むような取り組みの充実については、通学区域の学校に就学する子どもの保護者は「⑤わからない」とする回答が42.6%で最も多くなっている。通学区域外の学校に就学する子どもの保護者では「①そう思う」及び「②どちらかと言えばそう思う」との回答が66.6%となっている。通学区域外の学校に就学する子どもの保護者の方が肯定的に受け止めている傾向にある。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者：問1】<1つだけ回答>

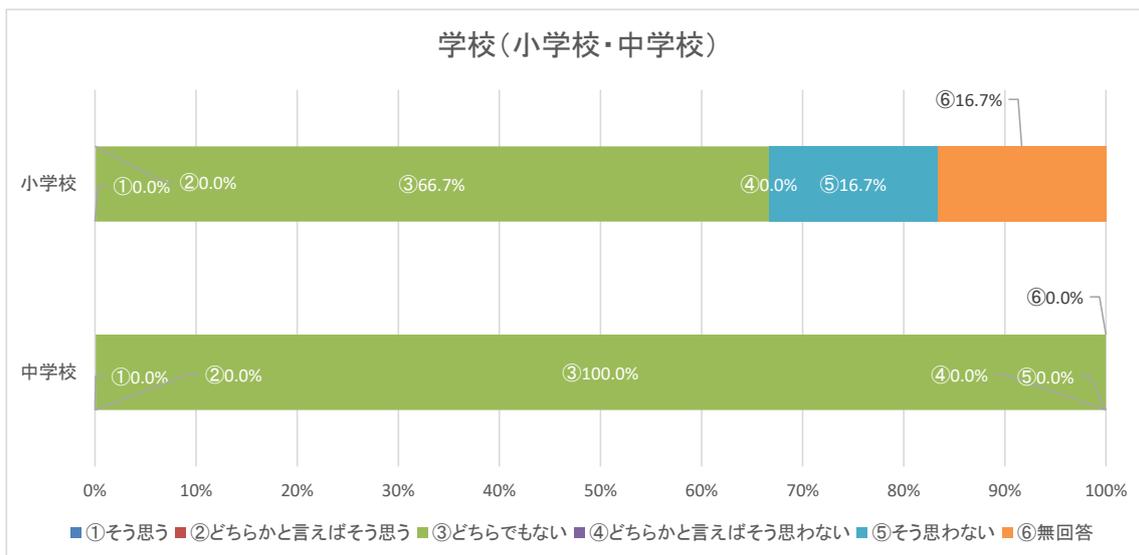


(分析)

学校選択制による保護者や地域住民の参加が進むような取り組みの充実については、地域団体関係者は「①思う」「②どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で28.5%、中学校で23.8%の方が肯定的な回答をしている。「③どちらかと言えば思わない」「④そう思わない」という回答は小学校で61.9%、中学校で61.9%となっている。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

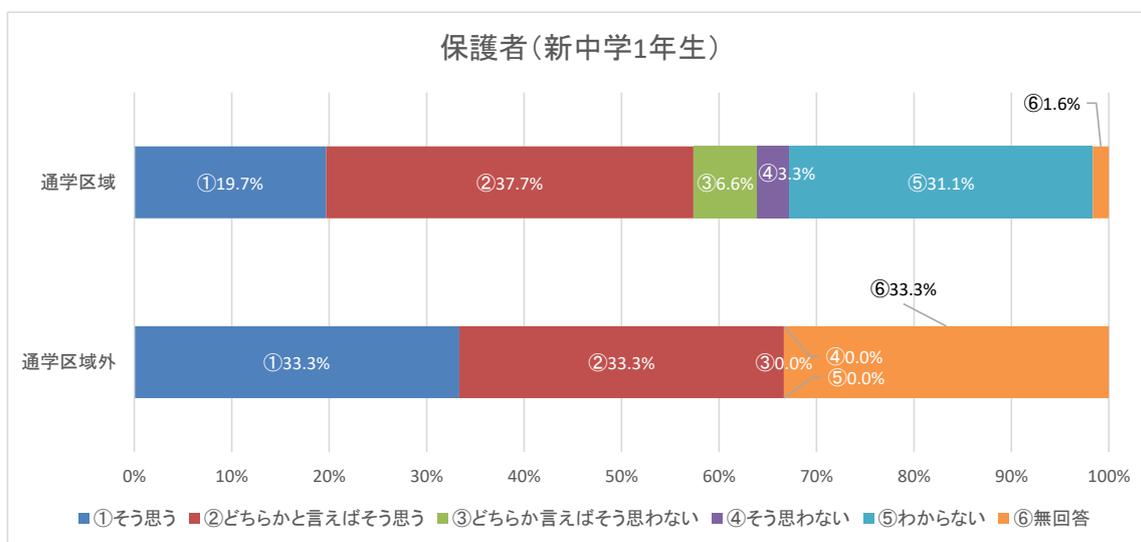
【学校状況調査：問5】<1つだけ回答>



（分析）
 学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますかの問いに、小学校で66.7%、中学校で100%が「③どちらでもない」との回答している。

④学校選択制によって、学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

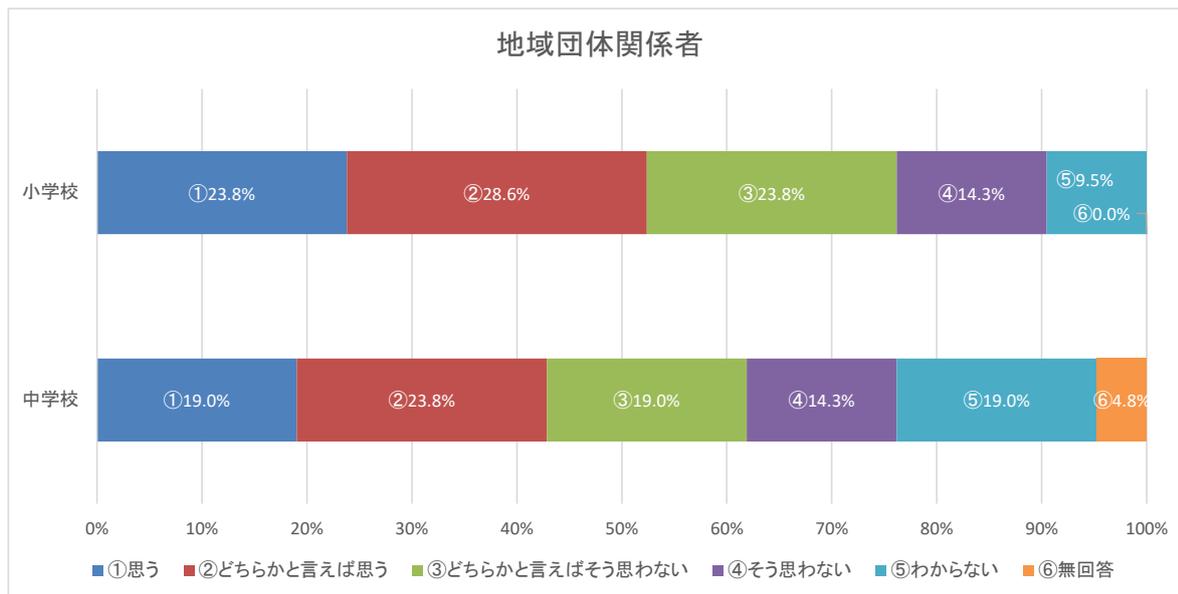
【保護者アンケート（新中学1年生）：問26】<1つだけ回答>



（分析）
 学校選択制によって、学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますかの問いに「①そう思う」「②どちらかといえばそう思う」の回答が通学区域の学校に就学する子どもの保護者で57.4%、通学区域外の学校に就学する子どもの保護者で66.6%となっており、いずれも肯定的にとらえる割合が高い。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

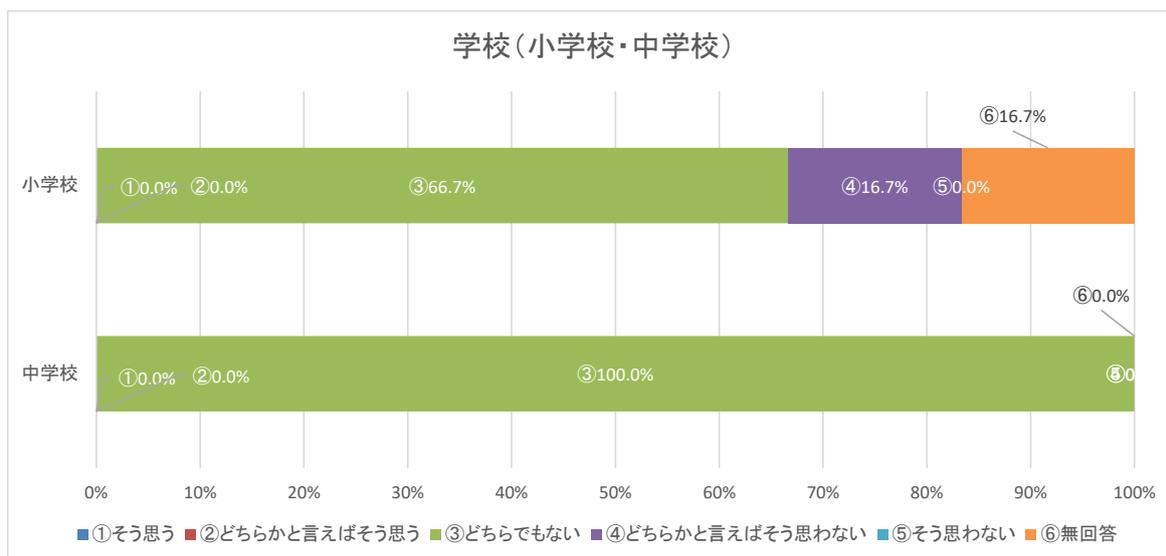
【地域団体関係者：問2】<1つだけ回答>



(分析)
 学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますかの問いに「①思う」「②どちらかと言えば思う」を合わせて、小学校で52.4%、中学校で42.8%の方が肯定的な回答をしている。「③どちらかと言えば思わない」「④そう思わない」という回答は小学校で38.1%、中学校で33.3%となっており、否定的な回答も多い。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査：問7】<1つだけ回答>



（分析）

学校選択制によって、あなたの学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたと思いますかの問いに、小学校で66.7%、中学校で100%が「③どちらでもない」との回答している。

【視点⑥総括】

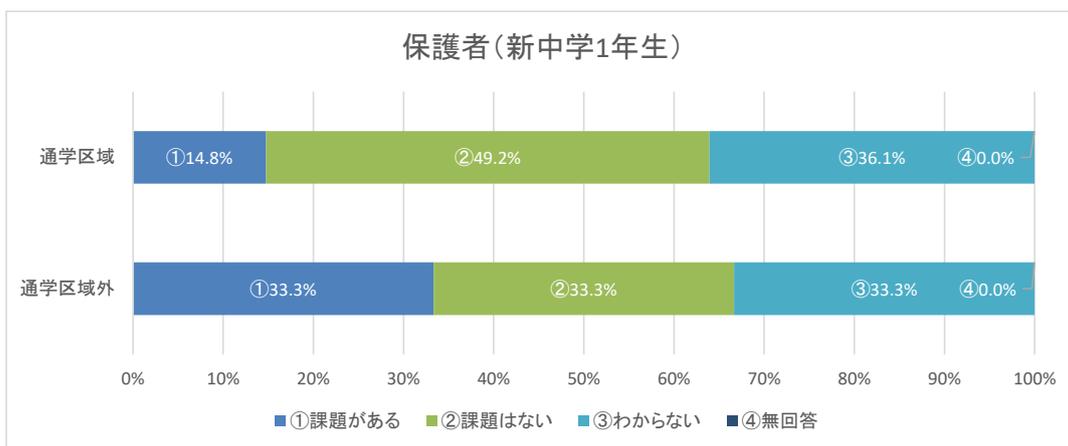
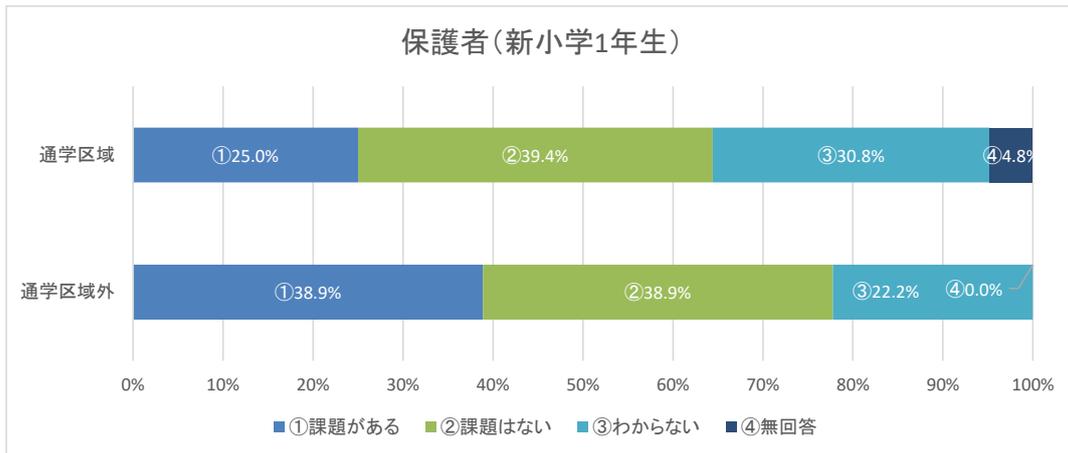
学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開など）が充実してきたかの問いに、「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」を合わせて、通学区域外の中学校を選択した保護者の66.6%、地域団体関係者は小学校で28.5%、中学校で23.8%が、学校選択制によって、充実してきたと回答しているが、通学区域の中学校を選択した保護者の29.5%と通学区域外の中学校を選択した保護者の33.3%、地域団体関係者は小学校で、52.4%、中学校で47.6%が「③どちらかと言えばそう思わない」「④そう思わない」と回答している。

学校選択制によって、学校における情報発信（学校だより、ホームページの更新など）が充実してきたかの問いに「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」を合わせて、通学区域の中学校を選択した保護者の57.4%、通学区域外の中学校を選択した保護者の66.6%、地域団体関係者は小学校で38.1%、中学校で33.3%が、学校選択制によって、充実してきたと回答しているが、地域団体関係者は小学校で52.4%、中学校で47.8%が「③どちらかと言えばそう思わない」「④そう思わない」と回答している。

【視点⑥】 児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問15、保護者アンケート(新中学1年生):問15】<1つだけ回答>



【具体的な課題及び改善のアイデア】

○「①課題がある」保護者(新小学1年生)

- ・交通量多く、しばらくは一緒に通学する予定です。子どもだけの登下校を見ている限り、ふらふらしたりであぶなっかしい所を見かけます。
- ・信号などの合流では、危険性を生じるため、子ども1人1人の意識が必要と感ずます。
- ・見守り参加しない親ばかり。子どもを危険な目にあわせっぱなしな親ばかりです。

○「①課題がある」保護者(新中学1年生)

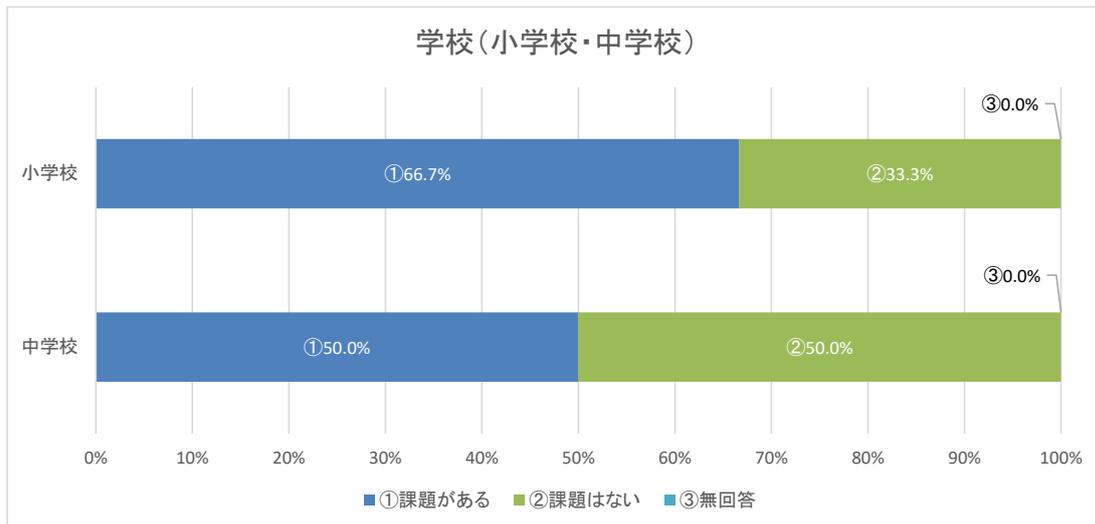
- ・交通量(車の)が多い道路を渡らないといけなないので、事故に遭わないか心配である。
- ・信号が多いので、大きな交差点ではみまもりのボランティアの人がいてくれたら良い。
- ・違法駐車や違法駐輪、道路への店舗拡大で何度もはねられそうになっています。

(分析)

通学の安全に課題が生じていると思いますかとの問いに、通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で38.9%、中学校で33.3%が「①課題がある」と回答している。通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で25.0%、中学校で14.8%が「①課題がある」と回答しているが、いずれも通学区域外の学校を選択した保護者よりも低くなっている。

②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査:問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】

- 「登下校は保護者責任」という原則が、当の保護者に十分周知されているか、または周知されていたとして、どこまで理解しているかが疑問です。
- 校区外より通学する必要があり、1・2年生の児童であっても、毎日の登下校に保護者が付き添えない場合も多く、校区外より1・2年生の児童が1人きりで歩いて登下校せざるを得ない状況が生じている。
- 校区外の登下校の状況を把握しづらい。

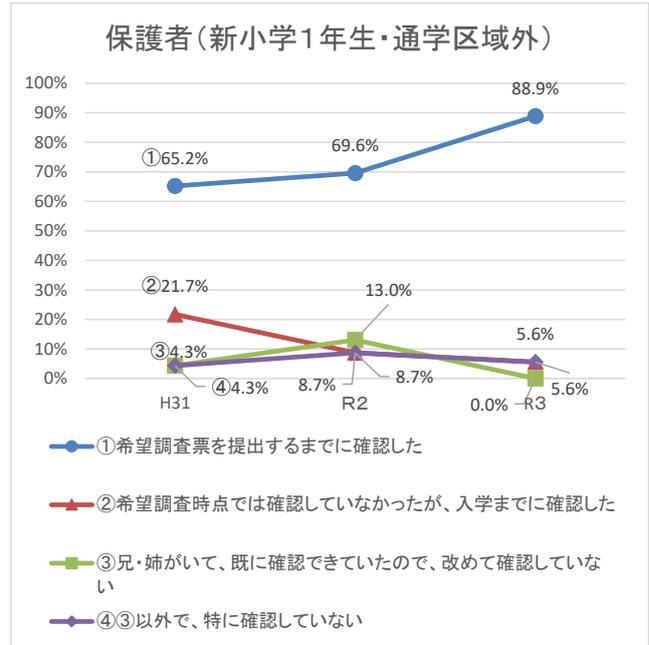
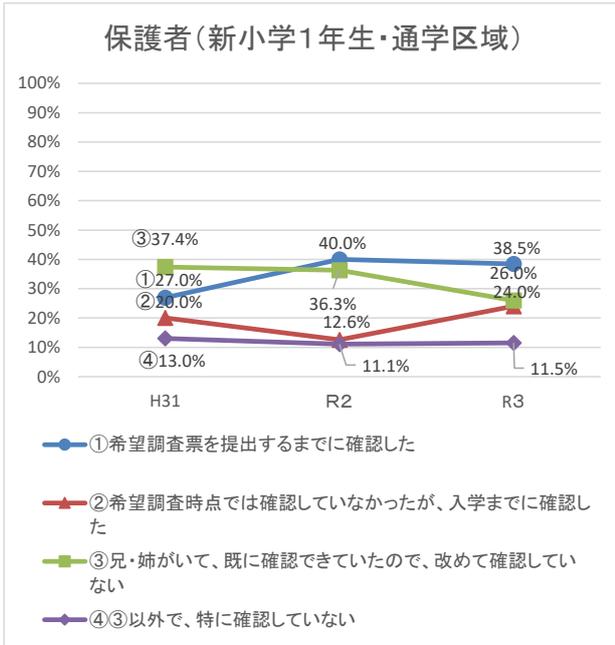
(分析)

学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますかの問いに、小学校では、66.7%、中学校では50.0%が「課題がある」と回答しており、「課題はない」と回答したのは、小学校で33.3%、中学校で50.0%となっている。

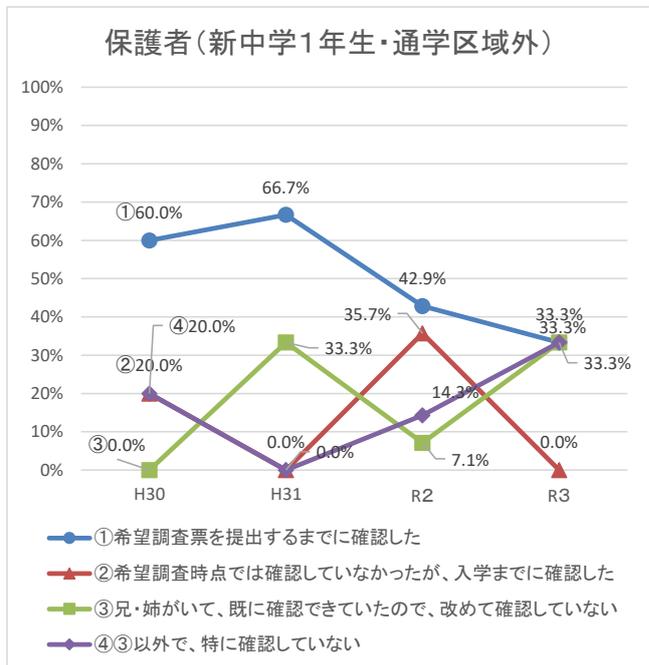
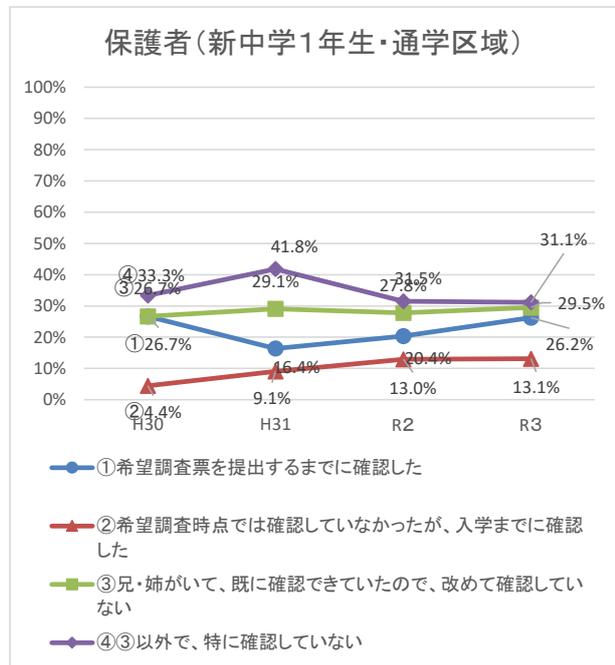
③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問6、保護者アンケート(新中学1年生):問6]<1つだけ回答>

<保護者(新小学1年生)>



<保護者(新中学1年生)>



(分析)

通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたかの問いに、通学区域外の学校を選択した小学生の保護者は、希望調査票を提出するまでに確認した割合は年々増加傾向にあるが、中学生の保護者は、H31年度に一度上昇したものの、年々減少傾向にある。

【視点⑥総括】

小学校で通学区域の学校を選択した保護者の25.0%、通学区域外の学校を選択した保護者の38.9%、中学校で通学区域の学校を選択した保護者の14.8%、通学区域外の学校を選択した保護者の33.3%が「通学の安全に課題が生じている」と回答している。具体的な課題としては、交通量に関することや信号機の横断についてなどが多かった。

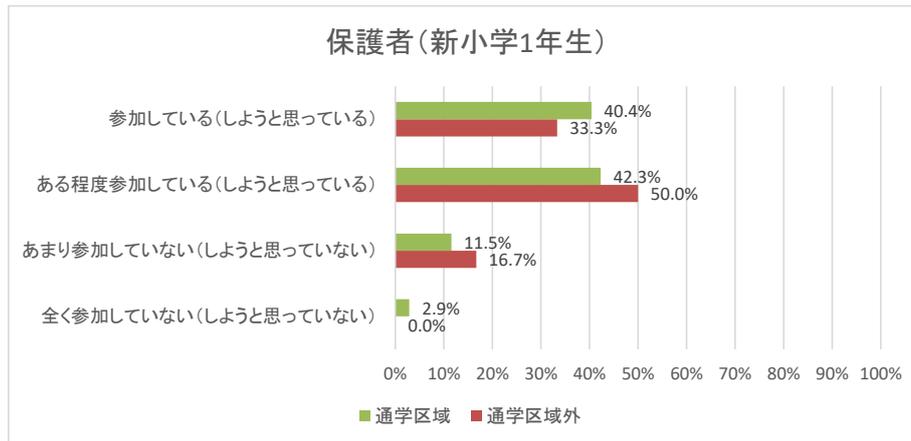
小学校では66.7%、中学校では50.0%が「課題が生じている」と回答している。

また、事前に通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等を確認した保護者は、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で38.5%、中学校で26.2%となっており、通学区域外の学校を選択した保護者の小学校で88.9%、中学校で33.3%となっており、どちらも通学区域を選択した保護者を上回っている。

【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問13、保護者アンケート(新中学1年生):問13】<1つだけ回答>

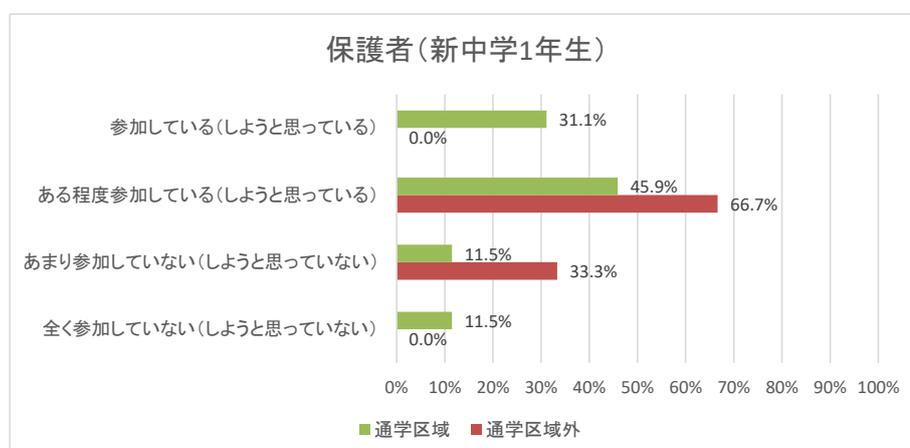


【理由】

- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」保護者(新小学1年生)
 - ・子どもの成長を見たいから。
 - ・子どもの様子を知ることができたり、今しかできない体験などを子どもと一緒に得られたりできればと思い、参加しております。
 - ・参加することで子どもだけではなく、親同士の交流にもつながると思っているため。
- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」保護者(新小学1年生)
 - ・仕事があるのであまり参加できない。
 - ・運動会等子どもの行事は参加しますが、PTAなどは仕事上難しいので参加出来ないと思います。
 - ・時間がない。

【分析】

学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますかとの問いに、「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で82.7%、通学区域外の学校を選択した保護者で83.3%の方が、肯定的な回答をしている。



【理由】

- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」保護者(新中学1年生)
 - ・子どもの成長がみたい。子どもと一緒に楽しみたい。
 - ・子どもの様子や、クラスの雰囲気を見たいから。
 - ・仕事もあるので全部は無理ですができるだけ参加したいと思っている。

○「全く参加していない（しようと思っていない）」「あまり参加していない（しようと思っていない）」保護者（新中学1年生）

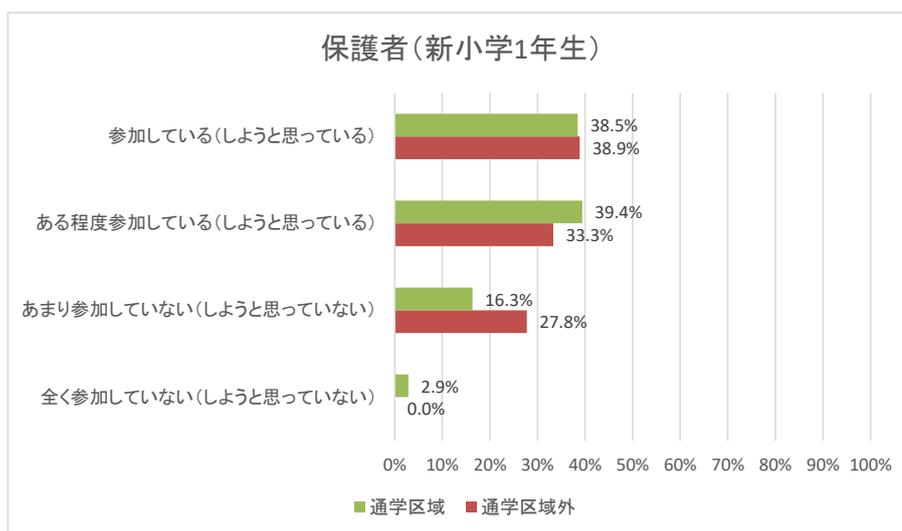
- ・仕事をしているので参加出来ない事が多いです。
- ・子どもが中学生でかえって本人が気を遣うと思うので。
- ・参加したいが、勤務が不規則で変更も多く、急に不参加になると申し訳ないから。

（分析）

学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますかとの問いに、「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で77.0%、通学区域外の学校を選択した保護者で66.7%の方が、肯定的な回答をしている。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事（祭り等）に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問14、保護者アンケート(新中学1年生):問14】<1つだけ回答>

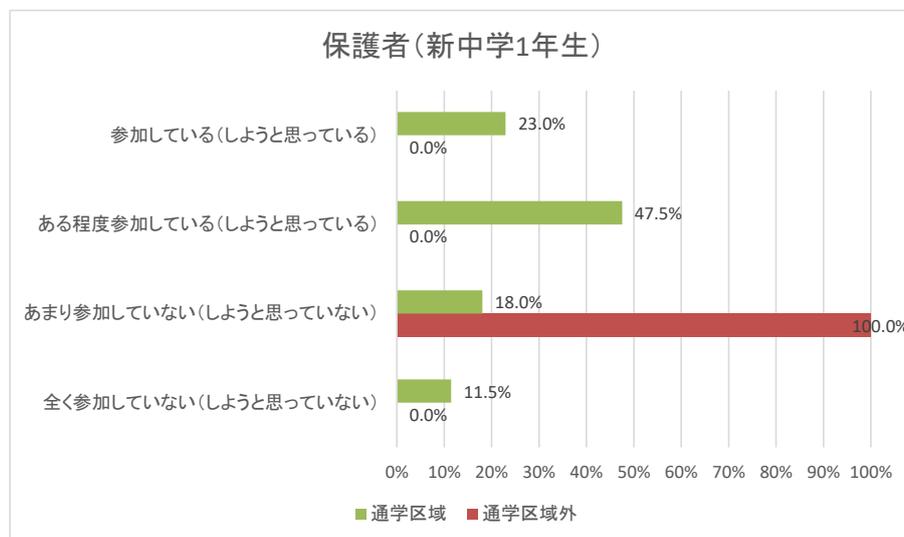


【理由】

- 「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」保護者（新小学1年生）
- ・子どもが楽しみにしているから。
 - ・お友達と行ったり、会えたりするから。
 - ・近くに親類がおらず、地域の人とつながりたいから。
- 「全く参加していない（しようと思っていない）」「あまり参加していない（しようと思っていない）」保護者（新小学1年生）
- ・興味がない。
 - ・行事がある事をあまり知らない。
 - ・参加してみたい行事もあるが、参加の方法が分からない。

（分析）

あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事（祭り等）に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますかとの問いに、「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者で77.9%、通学区域外の学校を選択した保護者で72.2%の方が、肯定的な回答をしている。



【理由】

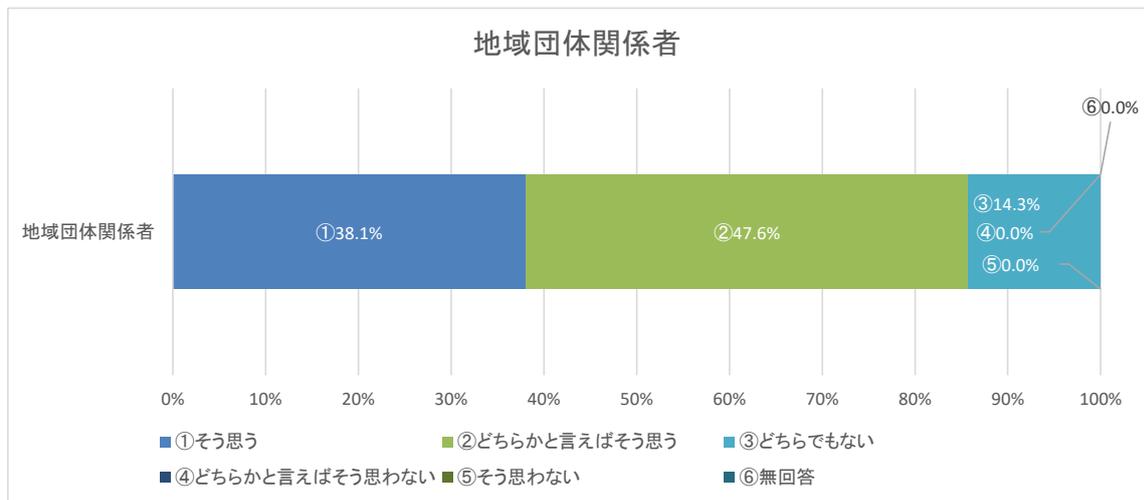
- 「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」保護者(新中学1年生)
 - ・友だちと遊べるから。
 - ・地域活動を知るチャンスだから。子どもが友達と参加できるから。
 - ・学年を問わず顔見知りになれる機会だから。
- 「全く参加していない(しようと思っていない)」「あまり参加していない(しようと思っていない)」保護者(新中学1年生)
 - ・習い事の為、参加出来ない。
 - ・参加意欲がない。何があるのかも知らない。
 - ・校区外で自宅が離れているため特別(学校)行事でないかぎりあまり参加しない。

〔分析〕

あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますかとの問いに、通学区域の学校を選択した保護者は「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」を合わせて、70.5%となっているが、通学区域外の学校を選択した保護者は、「あまり参加していない(しようと思っていない)」100.0%となっている。

③「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

【地域団体関係者アンケート：問3】 <1つだけ回答>

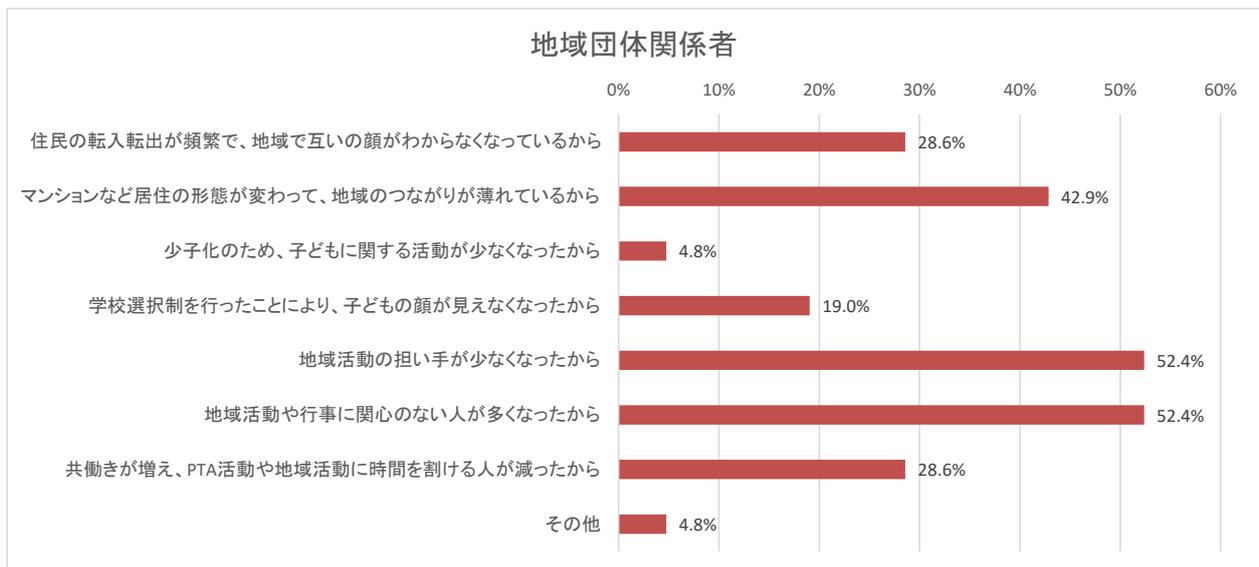


(分析)

「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどのように思いますかとの問いに、「①そう思う」「②どちらかと言えばそう思う」という回答が、合わせて85.7%となっており、地域の繋がりが薄くなっていると思う地域団体関係者の割合の方が多くなっている。

④上記の設定で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。それは何が原因だと思いませんか。

【地域団体関係者アンケート：問4】 <3つまで回答可>

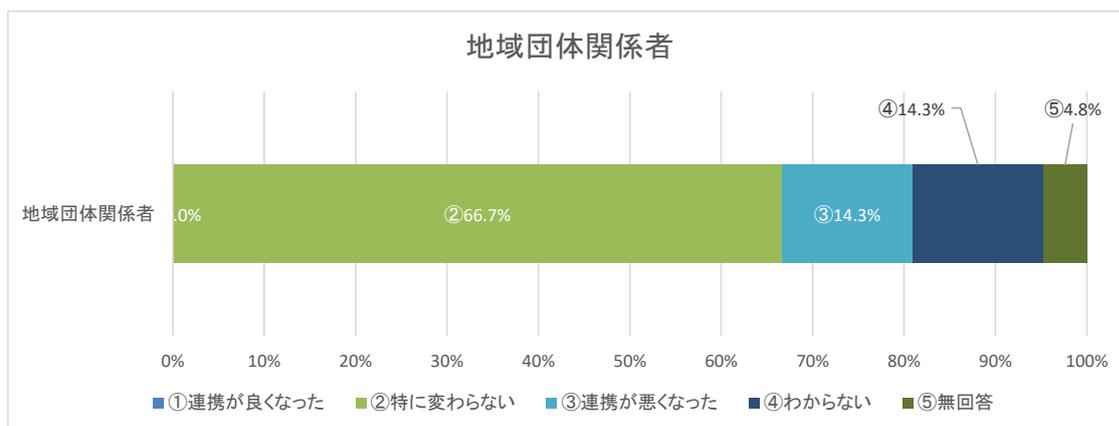


(分析)

「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」「地域活動の担い手が少なくなったから」の意見が多く、次いで、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」となっている。

⑤学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート:問5】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

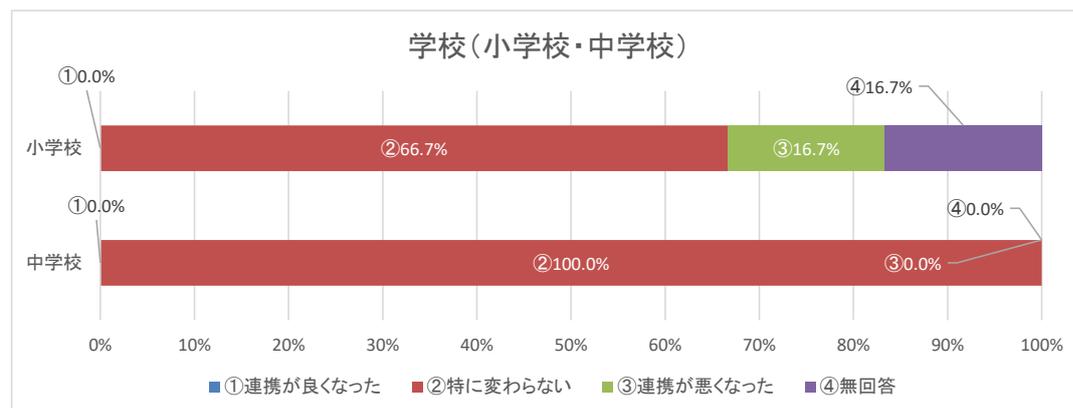
- ・学校選択制で通学している人数も少なく影響はないと思います。
- ・学校選択制による変化は特に感じる事はないのですが、それ以外の部分（コロナ、つながりの希薄化）での変化はあります。
- ・地域との学校とは連携は変わらないが、地域外の学校へ通う子どもの問題が発生した時、連携しずらくなった。

（分析）

学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたかの問いに、「②特に変わらない」という回答の割合が66.7%で最も多く、次いで「③連携が悪くなった」「④わからない」という回答が続いている。

⑥学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査:問11】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

- ・学校選択制が影響した事例は、特に見受けません。
- ・校区外の支援対象生徒等への対応にかかる教職員の負担増。
- ・ネグレクト傾向にある保護者への学校、地域からのアプローチが難しいところがある。

（分析）

学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたかの問いに、「②特に変わらない」との回答が、小学校で66.7%、中学校で100.0%となっている。「③連携が悪くなった」との回答が、小学校で16.7%となっている。

【視点⑦総括】

学校の行事（運動会、授業参観など）や、PTAの活動（親子レクリエーション、登下校の見守りなど）について、「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」を合わせて、小中学校とも 6割以上の保護者は肯定的な回答をしている。

また、住んでる地域の行事（祭り等）に参加又は今後参加しようと思っているかについては、小学生の保護者（通学区域の学校を選択・通学区域外の学校を選択）と通学区域の学校を選択した中学生の保護者は「参加している（しようと思っている）」「ある程度参加している（しようと思っている）」を合わせて、7割が肯定的な回答をしている一方、通学区域外の学校を選択した中学生の保護者は全員「あまり参加していない（しようと思っていない）」と否定的な回答をしている。

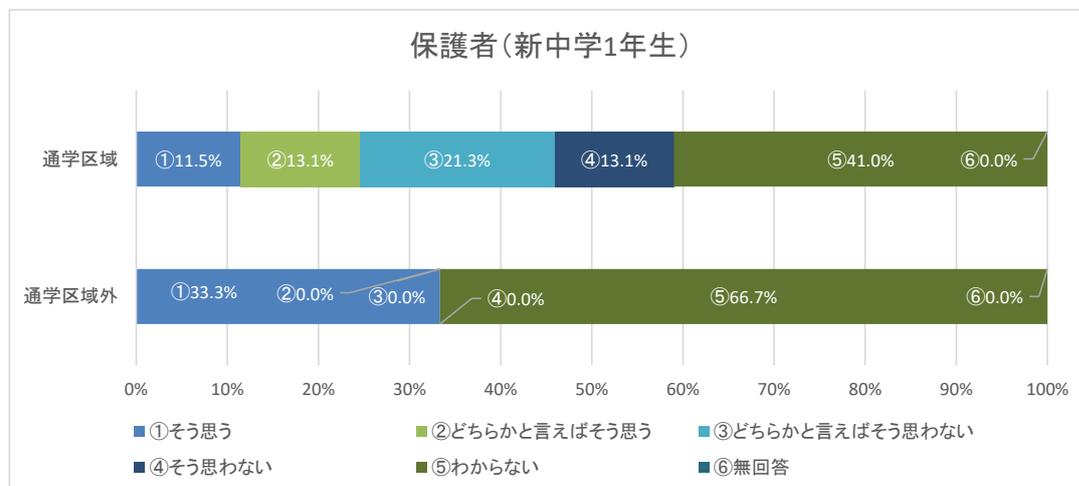
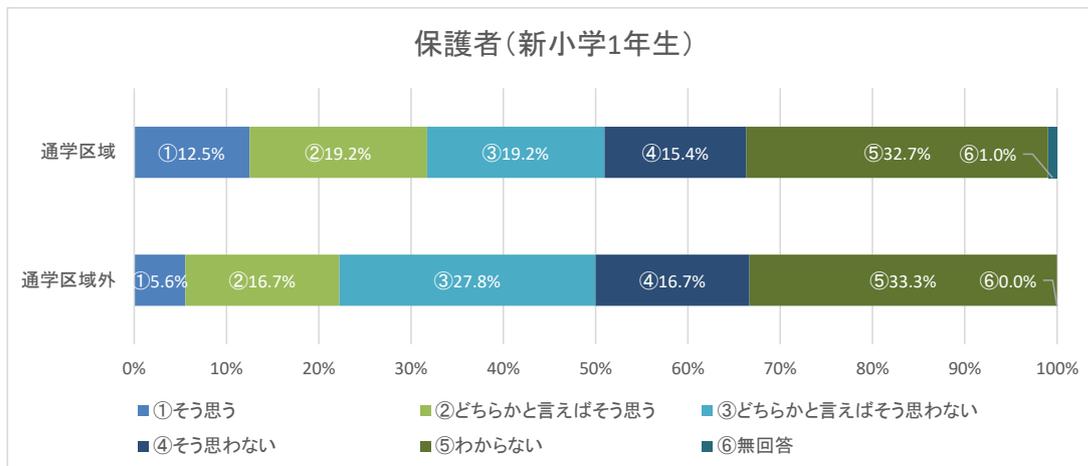
地域団体関係者の85.7%が、地域の繋がりが薄くなっていると回答している。理由としては、「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」などが多かった。

地域団体関係者の66.7%、小学校の66.7%、中学校の100%が学校選択制の導入による学校と地域、保護者の連携について、特に変わらないと回答している。

【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問16、保護者アンケート(新中学1年生):問16】<1つだけ回答>



【具体的な風評の内容】

- 「① そう思う」「② どちらかと言えばそう思う」保護者(新小学1年生)
 - ・学校の現状や先生方の評判など
 - ・PTAでもめている話、児童が毛染めしているのが多いなど
 - ・聞いたことはないけど、必ずあると思う。
- 「① そう思う」「② どちらかと言えばそう思う」保護者(新中学1年生)
 - ・過去にあったいじめや先生の評判など
 - ・風紀の乱れがないか、学級崩壊してないかなど
 - ・学力が低いや素行が良くない等

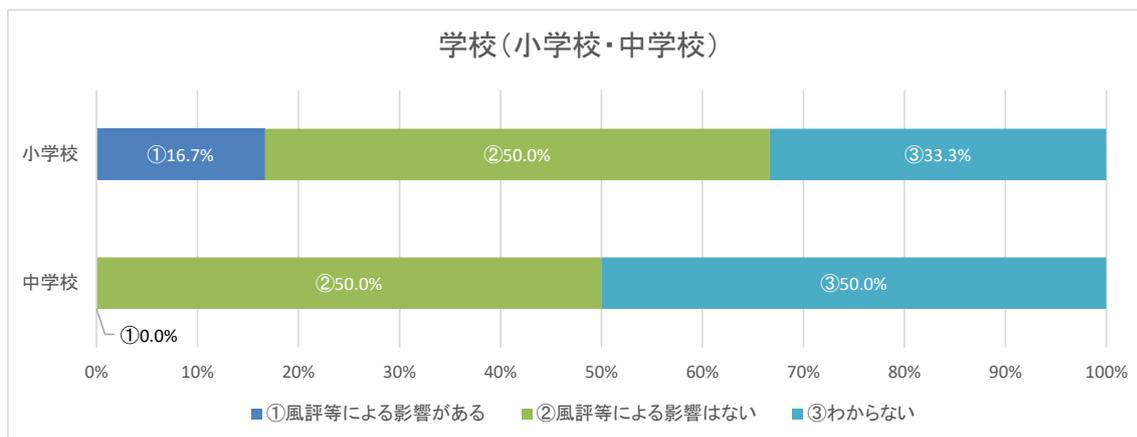
(分析)

風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますかとの問いに、「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせて、通学区域の学校を選択した保護者では、小学校で31.7%、中学校で24.6%の方が、風評等による学校の選択が行われていると回答している。

通学区域外の学校を選択した保護者では、小学校で22.3%、中学校で33.3%の方が、風評による学校の選択が行われていると回答をしており、中学校においては、通学区域を選択した保護者を上回っている。

②区や学校が提供する情報ではない風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査:問12】<1つだけ回答>



【そう考えた具体的な出来事等】

- ・保護者と学校選択についての話をしていた際、風評の話をされたことがある。

(分析)

風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますかとの問いに、「風評等による影響はない」との回答が、小学校・中学校とも50.0%と一番多く、「風評等による影響がある」との回答は、小学校で16.7%、中学校で0.0%となっている。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問17、保護者アンケート(新中学1年生):問17】<自由記述>

○保護者(新小学1年生)

- ・実際に通っている児童の保護者からの情報
- ・教育現場の声や保護者の声。良い所だけでなく、改善してほしい所等の情報も欲しい。
- ・学校内の写真がもっと載っていたらいいなと思いました。
- ・校区外の場合の通い方や帰り方について事前にわかればよかった。
- ・制服や体操服など入学時にかかる費用

○保護者(新中学1年生)

- ・実際にその学校に通ってる方からの情報等が見聞きできたら、もっとよいかと思います。
- ・子どもが通うので体験型の活動あれば、子ども自身が選択しやすいと思います。
- ・制服の事や入学にかかる費用など
- ・学校の雰囲気の情報をもっとあればいいって思いました。一番は、いじめとかのない平和な学生生活を希望しているので。

(分析)

小学校、中学校とも、学校選択にあたり、区役所や学校から提供された情報のほかには、在校生や保護者からの意見などの情報があれば良かったとの回答が多かった。

【視点⑧総括】

小学校では、通学区域の学校を選択した保護者の31%、通学区域外の学校を選択した保護者の22%、中学校では通学区域の学校を選択した保護者の24%、通学区域外の学校を選択した保護者の33%が、「風評(うわさ)等による学校の選択が行われていますか」という問いに「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答している。具体的な内容としては、「学校の現状や先生方の評判など」「風紀の乱れがないか、学級崩壊してないかなど」などがあつた。

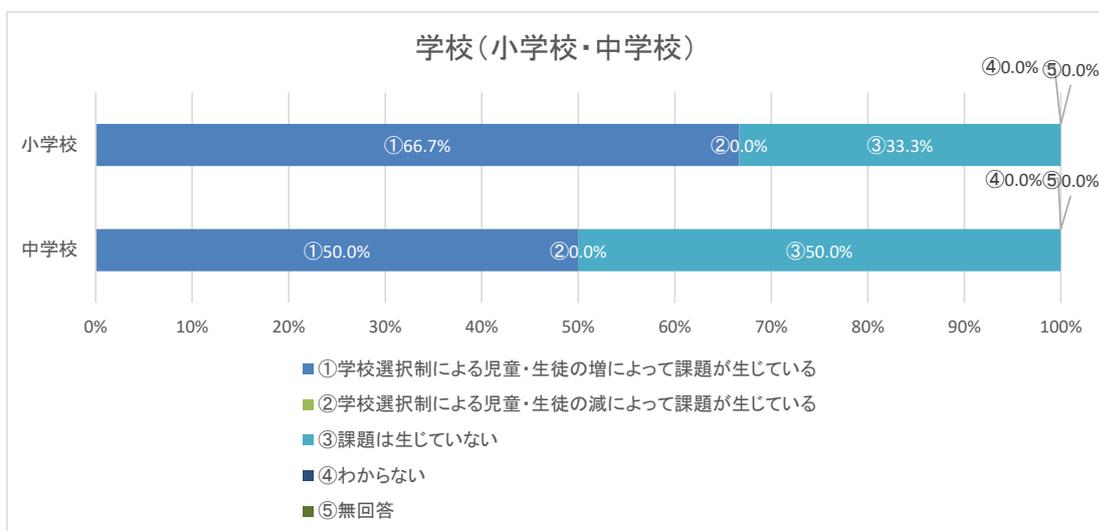
小学校の16%が風評等による学校選択制によって、学校に影響があると回答しているが、影響がないという回答は、小学校、中学校ともに50%となり、最も多い回答となった。

小学校、中学校とも学校選択にあたり、区役所や学校から提供された情報のほかには、在校生や保護者からの意見などの情報があれば良かったとの回答が多かった。

【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査:問13】<1つだけ回答>



【理由】

◆学校(小学校・中学校)

- ・学校選択制で進学校が決まったにもかかわらず、それを覆して変更を希望する例などもあり、現場に混乱が生じている。
- ・選択制にともなう、事務手続きや保護者連絡、学校間連絡があまりにも煩雑で、現場には大きな負担となっています。
- ・学校選択制によるプラスマイナスの結果、全体的な人数としてはマイナスとなってきており、より多くの仲間との中で学ぶ機会が減ってきてしまっている。

(分析)

学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますかとの問いに、「課題が生じている」との回答が、小学校で66.7%、中学校で50.0%、「課題は生じていない」との回答が、小学校で33.3%、中学校で50.0%となっている。

【視点⑨総括】

小学校の66%、中学校の50%が、学校選択による児童・生徒の増減で、教育的課題が生じていると回答している。具体的な内容としては、選択制にともなう学校現場への事務手続きの負担や生徒数の減少などへの懸念などがあつた。